

# 理科 お好み焼き題材に

公立高特別選抜 来月1日合格発表

府内の公立高校で18日に実施された2021年度入試の特別選抜は、国語、数学、英語では基礎的な内容を問うA問題、標準的な内容を問うB問題が出題された。学び直しに力を入れるエンパワメントスクールはA問題、体育や音楽などを学ぶ専門学科はB問題を使った。合格発表は3月1日。

関西を中心に展開する進学塾「第一ゼミナール」に、

各教科の出題傾向を聞いた。

**国語B** 全体の傾向は前年と同様。現代文は筆者の意見や文章構成を正確に読み解く力が求められた。前後の内容から文を並べ替えたり、要約する力を見たりする問題も。動詞の活用形や慣用句についての問いは、間違えやすそう。古文は鑑賞文を本文と照合しながら解く必要があった。

**数学B** 大問1、2は基礎力が幅広く問われた。3は前年と同様、規則性を考える問題。4の平面図形は出題範囲から外れた三平方の定理を使わず、相似を活用して線分の長さや面積を求めさせた。

**英語B** 英文の量は前年とほぼ同じ。スピーチ原稿

や会話文を題材に、コミュニケーションを意識した内容だった。英作文は自分の考えを表現する形式。リスニングの難易度は例年並みだった。

**理科** お好み焼きやコテ、消しゴムといった身近なものを題材に、基本的な知識や語句を答えさせる問題が多かった。実験や観察の結果から内容や数値を読み取り、科学的に思考したり、計算したりする力が問われた。

**社会** 図表や資料を読み解く力が問われた。五つの農作物を示して関連する場所を地図上で選ばせたり、図表から得た情報を参考に会話を完成させたりする問題があった。

**A問題** 基本的な知識を

確認する問題が多かった。国語の現代文は脱文の挿入や空欄補充など文章の流れをつかむ問題が中心。古文は生徒の会話から話の流れ

を意識させた。数学は傾向、難易度ともに前年並み。英語では、提示された条件に合わせて対話を完成させる形の英作文が出題された。